

Newsletter

2022.6.30

立教大学全学共通
カリキュラム運営センター



グローバル教養副専攻に関するアンケート調査結果

2022年3月にグローバル教養副専攻の認知度調査ならびに課題発見のためにアンケートを実施しました。その結果をご報告します。

■調査概要

対象者／2021年度グローバル教養副専攻対象者（2021年度の1～4年次生）計14,687名

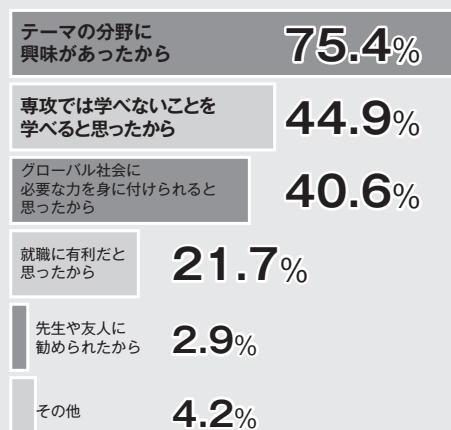
実施期間／2022年3月4日～3月31日

実施方法／Googleフォームによるインターネット調査（SPIRITメールにて案内）

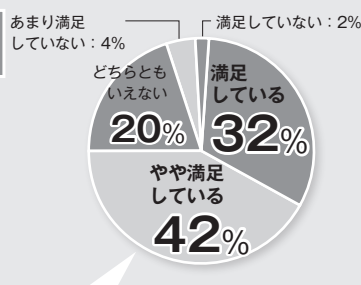
回答数／計146人（本登録者69人、未登録者・仮登録者77人）

本登録者対象

Q グローバル教養副専攻に
本登録した理由は何ですか？



Q グローバル教養副専攻での学びについて満足度を教えてください。



昨年度より15%多い学生が「満足している」、「やや満足している」と回答しています。本登録者は、副専攻の特徴を理解したうえで、本登録し、学びを深めている様子がうかがえます。一方、それが不満にも直結していることが学生の声から見受けられます。

＼学生の声／

良かった点

- 体系的なプログラムとなっていて履修計画を立てやすい。
- 選択した分野に関して学び続けようというモチベーションができた。
- ゼミの研究に活用可能な社会調査の技法や分析手法を学ぶことができ、卒業論文等の執筆にも役立てることができそう。

困った点

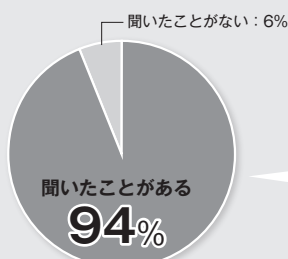
- 抽選科目の抽選に落ちて、修了に必要な科目が履修できなかった。
- 履修する必要のある科目の表が分かりにくい。どの授業がグローバル教養副専攻に属しているのかが分からない。

その他の意見

- 自分の取りたい講義を取った感じで、あまり副専攻という認識がない。

未登録者、仮登録者対象

Q 「グローバル教養副専攻」という
制度を聞いたことがあるか？



本登録していない学生でも「グローバル教養副専攻」という名称は聞いたことがある学生が多いようです。さらに、制度も理解している学生も多いが、海外体験や修了要件のハードルの高さや、他の学習や活動に時間を割きたいという理由から、本登録を見送っていることが推察されます。また、広報・情報発信の改善を求める声も多数ありました。

＼学生の声／

本登録をしなかった理由

- いつ登録できるものなのかよく分からなかった。
- 海外体験の負担（経済的、経済的負担以外）が高いと感じた。
- 修了要件単位数のハードルが高いと感じた。
- 他の学習や活動等に時間を割きたかった。
- 登録したいコース・テーマがなかった。
- メリットが感じられない。各コースの特徴が分かりづらい

その他の意見

- 説明会の開催時期や、パンフレットの配布時期を見直したほうがいい。
- 登録している学生の生の声が聞きたい。

TOPICS：グローバル教養副専攻 広報動画が完成しました！

この度、グローバル教養副専攻の認知拡大と制度の理解度向上を目的に広報動画を制作しました。動画の中では、制度内容や各コースの説明だけでなく、登録方法や実際に本登録した学生の声も紹介しています。

広報動画は、本学のYouTube公式チャンネルで公開しており、ホームページやグローバル教養副専攻Webサイトからもご覧いただけます。ぜひご覧ください。



グローバル教養副専攻 広報動画▶



学生インタビュー

本登録している学生2名にグローバル教養副専攻について語ってもらいました。インタビューのフルバージョンは動画をぜひご覧ください。

唐鎌 光生さん

経営学部国際経営学科3年次（インタビュー当時）

〔選択テーマ〕 Discipline Course Data Science

●登録のきっかけ

最初のきっかけは友達から誘われたことだったのですが、一番の決め手となったのは「大学時代に何か1つでもチャレンジしてみよう」と思い切れたことだと感じています。

●登録してよかったこと

一つ一つの授業は非常に充実していて、統計的な知識についてかなり学ぶことができました。また、自分の学修成果を証明するものとして卒業時に修了証が授与される点についても魅力を感じています。

●これから学ぶ人へ

グローバル教養副専攻は、登録することに対するリスクはないので、「リスクのない挑戦」だと捉えて勇気を持って一歩踏み出してみたいと思います。



カナダでの海外体験にて

立元 莉菜さん

文学部文学科4年次（インタビュー当時）

〔選択テーマ〕 Arts & Science Course Global Humanity

●興味を持ったきっかけ・登録を決めた理由

友達と説明会に参加したり、パンフレットを読んだりする中で興味を持ち、自分の興味のある授業を履修していけば修了できると分かり、登録を決めました。

●選択したテーマについて

「Global Humanity」というテーマを選択したのですが、英語で行われる授業や日本の文化・世界の文化について学んできました。テーマに沿った授業を取っていく中で、自分では絶対に履修しなかったと思うような授業に出会うことができ、視野の広がりを感じました。また、学部・学科の枠を超えて意欲の高い学生と出会うことができ、良い刺激になりました。

●これから学ぶ人へ

4年間テーマに沿って授業を取ることで、思わぬ学びの広がりや、学びの継続の後押しとなることがあると思うので、皆さんもぜひ登録してみてください。



フィリピンでの海外体験にて

〔新メンバー紹介〕

総合チームメンバーに就任して

2022年度より全学共通カリキュラム運営センターのメンバーになった2名の教員をご紹介します。

後藤 聡 (総合系科目構想・運営チームメンバー／理学部教授)

任期2年の眞島先生が本年度研究休暇を取られましたので、ピンチヒッターとして総合系科目構想・運営チームメンバーに就任した後藤聡です。1年間になりますが、どうぞよろしくお願いたします。

私は、私立大学研究ブランディング事業の代表者の一人として、その成果を現代心理学部心理学科とともに全カリのコラボレーション科目として授業展開いたしました(2019、20年度)。理系科目ということもあり、どの程度の履修があるか不安でしたが、理学部と現代心理学部以外から200名を超す履修があり安堵しました。そこで、生命科学を学んだことのない学生にも興味を持ってもらえるように、基本から分かりやすく解説したところ、とても面白かったといううれしい感想が多く聞かれ、開講してよかったと胸をなでおろしました。

ところで、この授業を通じて現在まだ不足している教育があるかもしれないと感じました。それは、この授業において、「提示されたデータに基づいて結論を出す」という課題を出したところ、多くの学生がデータを正しく判断することができていませんでした。社会においてエビデンスベースの思考法というのが重要だと言われていますが、少なくともこの授業の履修者は十分な思考法をもっていないと感じました。理学部ではごく当然のようにデータに基づく論理的思考法を実践しています。このような思考法の教育提供のために、理学部が果たせる役割は小さくはないのではないかと考えております。

浅妻 章如 (総合系科目構想・運営チームメンバー／法学部教授)

法学部の浅妻章如と申します。野坂昭如のファンだった父がこの名前を付けました。

2016～2017年度に全カリ総合チームメンバーとして活動し、2018～2019年度に全カリ副部長として活動しておりました。2020年度を迎えるに当たり急きょ、法学部法学科長予定の教員に不都合が生じ、かつて学科長を一年間だけ(通常は二年間)ピンチヒッター的に務めていた私がやはりピンチヒッター的に学科長を務めることとなり、そのまま2020～2021年度に法学科長として活動しておりました。その際は(私の都合ではないのですが)全カリにご迷惑をおかけしました。みそぎというわけではありませんが、再び今年度、全カリ総合チームメンバーとして活動することになりました。思えば全カリとのお付き合いが随分長くなりました。それはとにかく、よろしくお願いたします。

法学部では租税法を講義しております。司法試験の選択科目8科目中、受験者数が下から3番目という不人気科目です(司法試験の必須科目は7科目ですので、単純に数えると7+6=13番目となりましょうか)。司法試験レベルでしたら、会計の知識が必須という訳でもありませんし(もちろんあるに越したことはありません)、数学に関しても四則演算レベルで済むように出題者は気を使っているはずなのですが、さらに、出題範囲が狭く設定されていることも他科目選択者を含めて知られているのですが、なかなか上手くないものです(受験者が増えたら採点が大変になりますが、そんなことは出題者は考えていないと思います)。法学の中では、前述の会計+数学のイメージから、若干とっつきにくい科目と見られているのかもしれませんが(最も数学を使うのは恐らく商法なのですけれども)。

これをお読みの教員の中でも「自分の科目は当学部の中では若干とっつきにくく思われているのかも」とお感じの方もいらっしゃるかもしれません。しかし、各学部の本流の科目も、若干異端の科目もあってこそ、大学です。法学部でも、本流の法学(就中、民法)をきちんと修得してほしいというだけでなく、他の分野の知見も踏まえた多角的な視点を学生には獲得してほしいと考えておりますし、それは他学部も同様であろうと思います。学部科目としてもある程度は他分野の講義を設けていますが、多角的な視点といえはやはり全カリです。その環境作りにお役に立てればと存じます。

2022年度 全学共通カリキュラム運営センター 名簿

2022年6月現在

全カリ委員会				言語教育研究室				総合系科目構想・運営チーム										
役職名	氏名	所属		研究室名	氏名	所属		役職名	氏名	所属		担当						
部長	井川 充雄	社	メ社	英語	主任	三浦 愛香	外C	リーダー	後藤 雅知	文	史							
副部長	飯島 寛之	済	会				新多 了	外C	メンバー	上田 信	文	史	人文科学					
チーム リーダー	松本 句子	外C					三島 雅一	外C		後藤 聡	理	生	自然科学					
	後藤 雅知	文	史				シュロスブリー 美樹	外C		浅妻 章如	法	国ビ	社会科学					
運営センター 委員	河野 哲也	文	教				サンブソン リチャード J.	外C		前田 泰樹	社	社	社会科学					
	藤原 新	済	済				マッキロイ タラ	外C		石渡 貴之	福	ス	スポーツ人間科学					
	枝元 一之	理	化				上野 育子	外C	全カリサポーター									
	水上 徹男	社	現文				師岡 淳也	異					異					
	東條 吉純	法	国ビ				河合 優子	異					異					
	松村 公明	観	交				山口 まり子	異					異					
	湯澤 直美	福	福	コミュニティ福祉 学部長	ドイツ語	主任	坂本 真一	外C					学部 選出	林 文孝	文	文	人文科学	
	山口 和範	営	営	経営学部長			新野 守広	異						異	米谷 健司	済	会	社会科学
	江川 隆男	現	映	現代心理学部長			浜崎 桂子	異						異	榑原 恵子	理	生	自然科学
	丸山 千歌	異	異	異文化 コミュニケーション学部長	フランス語	主任	関 未玲	外C						高木 恒一	社	現文	社会科学	
関 未玲	外C		外国語教育研究 センター長			小倉 和子	異	異						川島 享祐	法	法	社会科学	
神橋 一彦	法	法	教務部長	スペイン語	主任	松本 句子	外C	大橋 健一 (春学期まで)						観	交	社会科学		
								千住 一 (秋学期から)	観	交								
言語系科目構想・運営チーム																		
役職名	氏名	所属		担当														
リーダー	松本 句子	外国語教育研究センター			中国語	主任	森平 崇文	外C	総長 任命	佐々木 正徳	外C	社会科学						
メンバー	三浦 愛香			英語	朝鮮語	主任	佐々木 正徳	外C		社会科学系サポートグループ 社会科学系サポートグループ 自然科学系サポートグループ スポーツ人間科学系サポートグループ								
	坂本 真一			ドイツ語			イヒャンジン (秋学期から)	異			異							
	関 未玲			フランス語	諸言語	主任	松本 句子 ^{※1}	外C										
	松本 句子			スペイン語														
	森平 崇文			中国語														
	佐々木 正徳			朝鮮語														
	松本 句子 ^{※1}			諸言語														

※1 言語チームリーダーとの兼務

※2 サポートグループ
 人文科学系サポートグループ
 社会科学系サポートグループ
 自然科学系サポートグループ
 スポーツ人間科学系サポートグループ

全カリニュースレター No.53
 発行 2022.6.30
 発行人 井川 充雄
 編集人 後藤 雅知、シュロスブリー 美樹
 発行所 立教大学 全学共通カリキュラム運営センター